

2014年3月期 第2四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

◆国際線について

Q. SKY SUITE 777 導入の効果を教えてください。

A. SKY SUITE 777 は現在 3 路線に導入しており、ロンドン線は 2 月 22 日より、ニューヨーク線は 5 月 21 日より、パリ線は 8 月 15 日よりデイリー運航しています。ロンドン線、ニューヨーク線のロードファクター、イールドはともに前年から大幅に上回り、好調に推移しています。今後も長距離路線を中心に SKY SUITE の導入を予定しています。ロサンゼルス線は 11 月 10 日より、シカゴ線は 2014 年 1 月（予定）より SKY SUITE 777 が就航いたします。12 月には SKY SUITE 767 がバンクーバー線へ就航いたします。

◆国内線について

Q. 国内地方路線の復活について教えてください。

A. 民間企業としての収益性追求と航空会社の社会的責務とを両立するための検討を進めてきた一環として、経営破綻時に運休した路線の運航再開を検討しております。運休した路線うち、代替交通手段の無い路線について、引き続き、地域や地方自治体との話し合いを続けながら、収益性を見込める路線について、順次再開する予定です。今後具体的な検討を進め、2014 年度事業計画発表時に改めてお知らせさせていただきたいと思っております。

◆コストについて

Q. 第2四半期のコスト削減状況はどうか？

A. 第2四半期累計では為替・燃油を除いたその他費用で 50 億円のコスト削減を行っております。引続きコストコントロールを強化していきたいと考えています。

Q. P13 記載の整備費が増えた理由を教えてください。

A. 整備費は、第2四半期累計で 206 億円（前年同期比+38.9%）となっており、これは客室改修の実施による定期整備費の外注費用増と為替影響（円安）によるものです。

◆2014年3月期業績予想について

Q. P16 記載の国際線の前年対比のイールドの伸びが弱い背景、国内線の前提の背景について教えてください。

A. 国際線は、欧米・東南アジア路線が好調に推移する見込みである一方、中国線については下期は上期に比べ旅客数が増加するものの、引き続き日本発の観光需要が回復していないことなどを織り込んでいます。国内線は、10月以降、伊丹＝福岡線を減便しており、競争環境の激化等、下期も厳しい状況であると見込んでおります。

◆配当方針について

Q. P3 掲載の強固な財務基盤について定量的な目標はありますか？

A. 現在お示しできる特定の数値はございませんが、自己資本比率だけでなく、絶対額として、イベントリスクや資産の減損等があっても財務健全性を確保できる水準の内部留保を持つことが必要であると考えています。

◆その他

Q.エアバス A350 導入に伴う投資計画の変更などがあれば教えてください。

A. 中期経営計画の投資について新たな追加はない予定です。

Q. ジェットスタージャパンへの増資の妥当性について教えてください。

A. 本日、ジェットスタージャパンへ 55 億円の追加出資をいたしました。

日本において LCC 事業がすぐに黒字化することは難しいため、3 年程度のスパンで見たいと考えています。今後のジェットスタージャパンとの付き合いについては、株主としてのサポート等を通じてジェットスタージャパンが日本のマーケットに馴染むよう支援を続けたいと考えます。

以上